

## はじめに

八戸学院大学の運営母体である学校法人光星学院は、平成 29(2017)年に創設 60 周年を迎え、「“教育の力”で地域・国際社会に貢献」する姿勢を明確化し、新立体的総合学園構想を展開しています。本学においては、新立体的構想の 4 本の柱の中でも特に、「1. 教育の質（力）の向上」と「2. 学院の特色強化と連携」を最重点課題と捉え、令和元(2019)年度は改善・改革に努めてまいりました。

これまで本学において取り組んできた教育・研究・社会貢献活動についての自己点検・評価と公益財団法人日本高等教育評価機構の検証による認証評価は、平成 30(2018)年度より令和 6(2024)年度までの第 3 サイクルを迎えました。第 3 期の認証評価システムの特徴は、1) 評価の基本的方針として三つのポリシー（ディプロマ、カリキュラム、アドミッション・ポリシー）を起点とする内部質保証（自らの責任で自主的・自律的な自己点検・評価を行い、その結果をもとにした自己改善により教育研究活動及び中長期的な計画を踏まえた大学運営の全般の質を保証すること）を重点評価項目として位置付けた点、加えて、2) 各大学の特色ある教育研究活動や事業等を「特記事項」として三つまで記述し公表できる点です。

本評価書において、本学の使命・目的に則り、教育・研究・社会貢献の活動に法人と全教職員が日々取り組んできた成果がまとめられ、これらの評価課題に対応できた内容の構築が達成されています。新型コロナウイルス感染症拡大の防止対応に多くの時間が求められる状況下において、本評価書をまとめた自己点検評価委員会と各委員会をはじめ全教職員に改めて深謝いたします。

本学に期待されている安心・安全で持続発展可能な地域社会の構築に貢献できる人財の育成に向けて、IR・EM 事業の更なる充実をともなった内部質保証における学修成果の可視化と新時代の国際教育の更なる進化に向けた取り組みが求められています。また、新立体的総合学園構想の残り二つの柱である「3. 地域連携による経営基盤強化と共生、4. 新時代の国際教育の研究と実践」に鑑みた地域における高大連携事業と地域貢献活動も抱合した事業が展開できるよう、今後も全教職員と共に「計画・実行・評価・改善」である PDCA サイクルを効果的に運用したいと思います。

八戸学院大学学長 水野眞佐夫